

白子川 源流通信

2014年5月 第41号

「白子川源流・水辺の会」会報紙

- 大泉南小学校の白子川学習スタート
- 毎月の活動を社内IN上で報告(TOTO株)
- 投稿「或る早朝の白子川事件」
- ◆Q&A シリーズ4「雨水浸透マス」
- ◆新連載 白子川現代史
- ◆連載 源流探歩②
- 定例活動報告



白子川な風景 5

白子川で、アユ初放流



5月11日は白子川にとってメモリアルな日となった。埼玉県南部漁協が荒川で採捕した4,000匹もの稚アユが、白子川（向山親水公園）に放流されたのだ。

源流から7km地点にある東埼玉橋下の1.5mの段差をアユは越えられないので、そこより上流で生息できるかどうかのテスト放流となった。

はたしてアユは源流まで来てくれるだろうか。

水量不足や幾つもの小さな段差など、源流への道のりは険しく、心配はつきないが、この夏には20cmほどに育つという。

「のぼりつけのあるヤツは、のぼるんだよ！」という漁協組合員のことばを信じたい。

和光市立第五小隣の向山親水公園で放流

(文・写真 菅沢 博)

大泉南小学校の白子川学習スタート

今年も大泉南小学校4年生(110名)の総合学習『白子川博士になろう』が始まりました。

① 5月1日(木)

全員で陸上から白子川を観察しました。「生徒にはまず大きな観点で白子川を感じてもらいたい」との横山先生の意向がズバリ的中。翌日から白子川に遊びに行く生徒が増えたそうです。

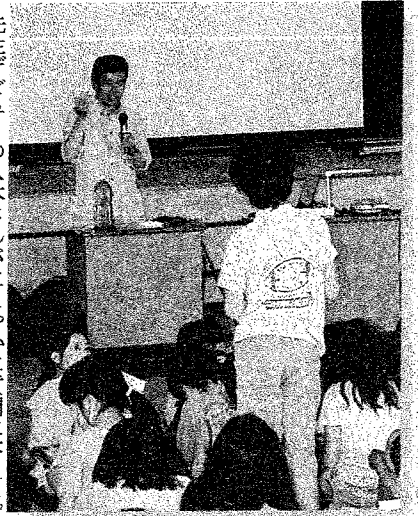
② 5月7日(水)

なんだかんだといっても先生方が白子川の現状を体験しておかないといけないよねと、童心にかえって川遊びを楽しみながら源流の姿を体感しました。

③ 5月13日(火)

午後には体育館で、キックオフ授業を行いました。今年の“先生は”菅沢・永井・八本(デビュー)、アシスト野沢の4名。生徒たちは熱心に学習シートに記入し質問もたくさん出ました。

先生デビューの八本さんがこやかに質問に答える。



※ 終わってからの私たちの振り返り

八本さんから「今年はこのあと6月に川体験するそうですが、キックオフ授業で先に白子川の情報を与えてから川に入るよりは、**まず川体験**して、そこで**見たこと感じたこと疑問に思ったこと**をキックオフ授業で出してもらう方がよいかも

もしれない」との声が出ました。良いアイデアだと思います。(菅沢 博)

〈白子川少年隊〉 井口卓磨くん からの メッセージ

※井口くんは白子川を自分ちの庭のようによく知る少年です。定例活動の時は少年隊のリーダーとして活躍しています。その井口くんが、白子川を愛するあまり(?)他の川から持ちこみ放流した魚を告白してくれました。

生態系に影響のある魚は放流してはいけないという戒めをこめて、今回、メッセージをお願いします。(編集部)

僕が書くのは、白子川の生き物(上流からコイの所まで)です。

1. まず、昔からいたと思われる魚
ギンブナ/ドジョウ/シマドジョウ
2. 誰かが、放流したとおもわれる魚

コイ/ニシキゴイ/アメリカザリガニ/
タモロコ

3. そして、僕が放流した魚と数
アブラハヤ(落合川から)50匹程度
(繁殖して、数が、増えています)
タカハヤ(落合川から)50匹程度
(この魚は、落合川に放流されていたもので、西日本に住んでいます)
モツゴ 10匹程度
スミウキゴリ(落合川から)1匹
カワムツ(落合川から)4匹

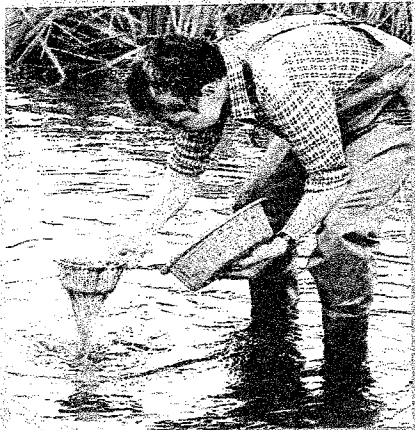
以上が、現在の白子川の魚たちです。

中学生、高校生募集!

毎月第4日曜日に活動をおこなっています。ぜひ、来てください。中高生は少ないので1人からでもオッケーです。みんなで白子川をキレイに豊かにしましょう。

定例活動報告

12月、1月、2月、3月、4月



アオミドロの藻は、細い糸状で、ぬめりがあり、網ですくうと、どろどろした状態で絡まる。発生の原因は、泥に堆積した窒素やリンの富栄養化。

□ 白子川源流域と活動の様子 冬から、春にかけて

源流域はこの冬、木道工事のため立ち入り禁止状態が続いた。工事は3月になってからようやく始まったが、難航しているように見えた。水涸れの1月中だと、土台の工事も楽だったろうに…。2月3月は水量が多くて、業者の方は湧水を止める作業や、それでも湧いてくる水をホースでくみ出す作業におわれ、木道完成は3月末になってしまった。

人力で必死に止めようとしても、この時の白子川の湧水はトクトクと湧き出てくる……意のままにならぬ自然の姿を見せつけられた思いだった。

木道が新しくなり、4月からは春の陽気に包まれて、源流の水辺であそぶ親子連れや小学生が例年よりぐっと増えたように感じている。(東谷貞子)

■ 源流域・水の測定データ

測定地点	日	12/22	1/25	2/23	3/23	4/27
		天気	☀	☁	☀	☀
源流部	水温℃	13.4	-	16.2	19.5	24.8
	水深cm	28	-	17	18	15
	PH	7.8	-	8.3	8.2	8.6
井頭橋	水温℃	8.0	8.0	15.5	19.0	18.8
	水深cm	39	11	30	29	28
	PH	7.9	8.2	8.1	5.6	7.9

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

さわやかな初夏の早朝

アオミドロの除去作業!

5月4日(日) AM6:30~臨時活動

気持ちの良い青空の下、白子川上流で、アオミドロの除去作業開始!

アオミドロが異常発生し、会員から「アオミドロ取りたいね」の声かけで、12人のメンバーが集まりました。

早朝の作業で約2時間「アオミドロとの闘い」…。腰にひびきましたが、気分は晴れ晴れ! 早朝の作業もいいものですね。朝のウォーキングや散歩の方から声をかけられ、作業にも力が入りました。

エメラルドグリーンのアオミドロはきれいな色です。誰となく「この色の青のりは高級品!」「加工して白子のりで売れるかも…」「知ってる人は買わないなあ…」なんて、冗談も交えての作業でした。皆様腰は大丈夫ですか? お疲れ様でした。(浦口美代子)

活動記録

- 3/11 TOTO 助成金団体交流会出席
- 12 会報第40号発行
- 23 定例活動
- 30 立野川シンポジウム参加
- 4/2 白子川アユ放流打合せ
- 3 テレビ東京1回目白子川取材(5分番組「すけっち」放映予定)

- 4/20 科学教育研究協議会プレ大会参加
- 27 定例活動
- 5/1 大泉南小4年生白子川を観察
- 4 臨時早朝川活動(アオミドロ除去)
- 7 大泉南小の先生方の白子川体験
- 11 白子川(下流域)でアユ初放流
- 13 大泉南小4年生キックオフ授業

**白子川の毎月の活動を
社内インターネット上で報告**
—毎月1500人の社員がアクセス—

TOTO (株) 東京支社 鈴木裕子

※白子川源流・水辺の会では、2010年からTOTOさんの水環境基金の助成を受けて活動しています。毎月の定例活動には、鈴木さんを始めTOTOの社員の方が何人もボランティアとして参加されます。もうすっかり顔なじみになった方もいらっしゃると思います。今回は、その鈴木さんに、いかにして毎回継続したボランティア募集ができるのかを書いていただきました。(編集部)

こんにちは、TOTO 鈴木裕子です。
いつも皆様には、TOTO 社員の参加に快く対応頂き、感謝いたします。今回のご質問は「どのようにしてTOTO 社員を白子川に連れてくるのか?」というものでした。

TOTO では、グローバルな水まわりトップメーカーとして環境への取組みを加速させるため2010年4月に「TOTO GREEN CHALLENGE (トートー グリーン チャレンジ)」をスタートしました。そうです! 私が白子川に最初に訪問させていただいた年です。10月から活動が始まりましたので、白子川はこのテーマとともに、TOTO と歩んで頂いています。

TOTO には、社内で閲覧できる社員用のイントラネット(企業内インターネット)があります。

「TOTO GREEN CHALLENGE」は重要ですから、画面でも一

2014年5月定例日。
支社長さん自ら白子川源流に来て下さり、菅沢代表に今年の助成金目録を授与。感謝!



番目立つ場所にバナー(インターネット上の宣伝・広告)があり、私はそこに毎月「白子川活動報告」と「次回の募集」を投稿します。毎回社員1500人ほどの閲覧があるようですが、季節に合わせた内容や写真をまじえて、私なりに読んでもらえるよう工夫しているつもりです。TOTO 社員が参加すればする程、助成金が上がるシステムです。

他にも社内誌の取材を受けたりして、アピールしています。(白子川源流水辺の会は、TOTO 社内では一番有名な団体さんだと思います! 社長<*今年度から会長>が来たのが一番ですが。)

また、TOTO ホームページでも一般の方を募集してまして、TOTO 発信で世の中への参加も増やしたいと思っています。

このような活動を毎月コツコツ実施し、社内のリピーターも増えつつある今日この頃です。次回は何人集まるでしょうか、今後共、TOTO を宜しくお願い致します。



2014年4月27日参加のTOTOさんのメンバー。ちゃっかり少年隊の子たちも一緒に。

或る早朝の 白子川事件

東大泉7丁目
正田 英子

毎朝「憩いの森」での太極拳に参加して早7ヶ月。終わるとそのまま湧き水
流るる白子川と、周辺の木樹・野鳥・野の花など、移り行く四季の変化を恋う
る者達（60～80代）の心若きグランドマザー達が井頭公園を一周して帰る。

或る朝、いつものようにA・Kさんと一周し、あの有名な巨木マルバヤナギ
の方へ急いで歩いていたら、急に後方から凄くけたたましい声がし振り向いた
トタン、白い何かが橋の下をくぐってサーッと高く上がり、目の前で絡み合い
声高く鳴き叫びつつ水に入って争いはじめた。三羽の白サギである。

全く一瞬の出来事であった。その鳴き声と、突っ突き方の激しさに三人とも
暫く声も出さず固まってしまった。その光景は以下のとおりでした。



橋の下をくぐりサーッと高く上がると、グワグワー鳴きながら激しい突っ突き合い。人間「ケン・カ？……三角関係？…ワー怖イッ」



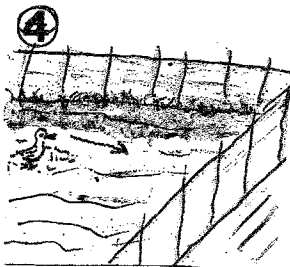
複雑な気持ちで
唖然とするのみ

一羽が一羽を川に押さえ込み、両足で相手の両羽を水の中に入れて完全に押さえ込む。
人間「わー、ケンカだ 誰か助けてエ〜」人間「こらっ！いじめちゃ駄目じゃないか」人間「誰か来て〜エ…」（エッ？これ虐待？）



相手の長いクチバシを水中に押さえ込み、自分のクチバシで開かない様挟んで、じっと動かない。人間「死んじゃうよ〜…何とか逃げるんだ〜」人間「ガンバレー ガンバレー」

向こう岸の為、助ける事でできず悲愴な気持ちで弱い鳥に向かって「ガンバレ ガンバレ」と叫ぶだけ。急に後ろで「縄張り争いですね」の声。いつもこの川を調査研究しておられる岡崎氏であった。ホッとすると同時に何だか疲れた。岡崎氏も「カメラ持って来ればよかったナ」と、一緒に見つめておられるだけ。どうする事も出来ない。Aさんが言った「飼育されている鳥たちの世界では見られない」と



後の一羽は橋の向こうに行き、遠くからその様子をジーツと動かさずに見つめていた。メスであろう



強い鳥の一寸のスキを見てやっとなんか飛んだ。だが、すぐドボンと落ちそうな弱々しい飛び方だが、精一杯飛んだのを感じ皆で言う。人間「よかった、よかった。よく頑張った。エライッ！」人間「アー安心した、じゃ帰ろう」



「ヤバイッ。これはヤバイッ！」
三人 又全身固まる

車道路の手前で「どこに飛んで行ったかね」と心配して振り向く。何と、あの巨木となったマルバヤナギのテッペンに止まっていた。シヨンボリした姿で…。
人間「羽がボロボロみたい…大丈夫かね…？」
ドキッ！その後ろの電柱のテッペンにカラスが止まりジーツと弱り果てた白サギを見つめているではないか。な〜にこれッ、一難去って又一難？



三人、身も心も爽やかに
安心してわが家へと急いだ

そこへあのやさしそうな岡崎氏が、まるで自分たちの話が聞こえたかの様に現れ、滑り台の上から望遠鏡で白サギを見られた。人間「不思議、不思議…でも、もう大丈夫、あの方が来られたから…♪」

その後、岡崎氏と又公園でお会いしたので聞いてみると「あれが、そうです」と。羽の乱れた白サギが一羽静かに、愛する白子川にいました。人間社会とよく似た体験をしつつ…しつかり強く生きている。大自然の息吹の中でエサを求めて今日も元気で居ました。

2013. 12. 11

道路の雨水浸透マスは白子川の湧き水を守るため？

Q 大泉地域は、白子川の湧水を守るために道路に雨水浸透マスがたくさんつけてあるって聞いたのですが本当ですか？

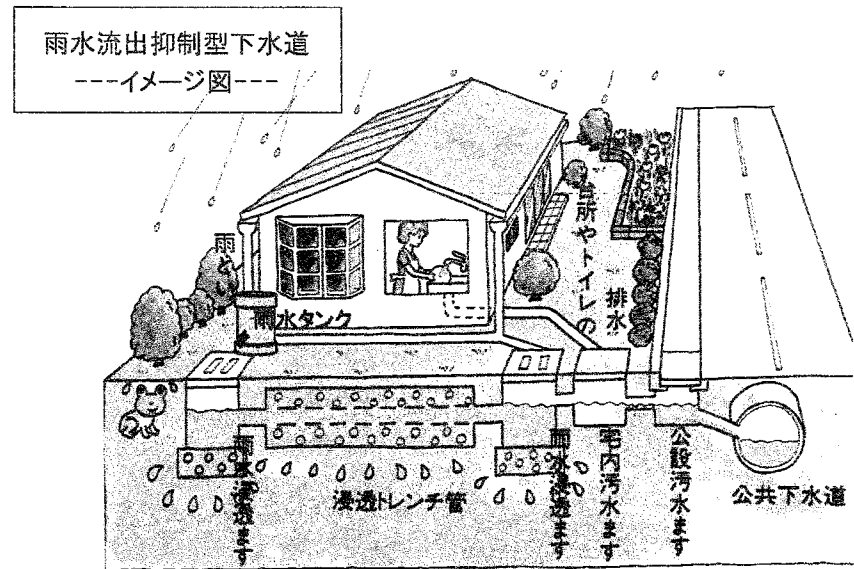
A その質問に答える前に、まず、東京の下水道の歴史からお話ししましょう。

東京都にいわゆる近代下水道ができたのは、明治17～18年に作られた「神田下水」です。その後、昭和33年に「新下水道法」が作られました。練馬区で下水道が整備され始めたのは昭和42年、合流式（雨水流出抑制型）下水道整備が始まったのは昭和57年のことです。

練馬区は、都心に近い東側から徐々に都市化が進んでいるため、西側の方は今でも23区としては比較的多くのみどりが残っています。

一方で、西側は（白子川、石神井川などの上流部になりますが）、河川改修が遅れていたため、それに伴い下水道の整備もなかなか進まなかったため、洪水の被害にたびたびあいました。

その対策として、大量の雨が川や下水道に一気に流れ込んで溢れるのを防ぐため、西側に集中的に雨水浸透マスや、透水性舗装の道路、合流式（雨水流出抑制型）下水道などが整備されたのです。



雨水を直接下水道に流し込むのではなく、できるだけ地面に浸透させるように考えられています
出典：練馬区雨水浸透施設助成制度のしおり

このように、雨水浸透マスや透水性舗装の道路は、もともと治水が目的であって、湧水を保全することを目的に設置されたものではないという事です。



神田下水 130周年

JR神田駅近くの区道下にある現役の下水道管で、明治政府内務省の石黒技師が設計し、明治18年に完成した。内部は卵を逆さにしたような形で、赤レンガで積み上げられている。下水道局によると、管内の下水量が少ない時も水深が深く流速を確保できるため、ゴミがたまりにくく、下水道管として最も合理的な断面だという。
(参考・東京新聞 2014.5.27 記事)

逆卵の形

スムーズな流れ

結果として、湧水の保全へ

その後、河川改修が徐々に進み、下水道の整備も進んできた現在、雨水浸透マス等「湧水の保全」という意味も出てきたのかもしれませんが。

純粹に、湧水の保全での雨水浸透マスの設置ということでは、平成4年に練馬区（稻荷山、清水山周辺地域）で湧水保全モデル事業が始まり、平成5年には、雨水浸透マスの設置を行いました。

湧水を守るために一人ひとりができる事

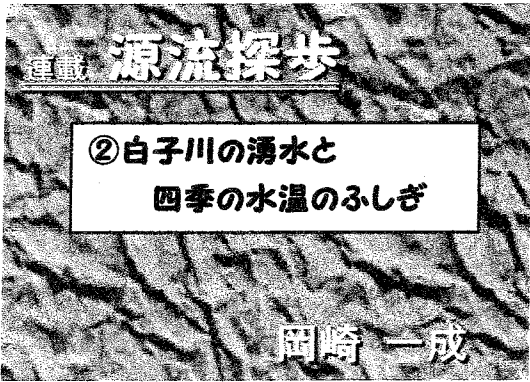
- ①物の敷地をコンクリートで固めない
雨を地面にしみこませる工夫が重要です。
- ②みどりを残す、増やす
雨水を土の中にしみこませた後、それを土の中に保つためには、みどりの力が重要になってきます。
- ③水を汚さない、節水を心がける
直接、湧水の保全につながるということではないかもしれませんが、普段の生活の中で水を大切に使うという気持ちを持つことが、回りまわって湧水の保全、河川の保全につながります。

白子川の湧水を守り、いつまでもみんなの白子川であるように、一人ひとりができる事を考え、実行しましょう！

【参考データ】平成3年から始まった雨水浸透マスの助成による昨年度までの住宅での設置数は 約 3300 件
そのうち、白子川周辺（東大泉7丁目、南大泉1、4丁目）の設置数 約 220 件
データ提供：練馬区土木部 計画課 総合治水係

【参考文献】ねりまのかんきょう（平成17年度報告）
白子川を知っていますか ―水辺再生に向けて―
（白子川汚濁対策協議会発行）
練馬区水辺ふれあい計画（平成元年6月）
練馬区総合治水計画／東京都下水道局 各種資料

（文責／練馬まちづくりセンター 駒井康一郎）



②白子川の湧水と
四季の水溫のふしぎ

岡崎 一成

※ 岡崎さんは水辺の会に入会して2年目ですが、白子川源流部を一番よく知っている方と思われます。というのは、毎朝出社前に源流部に入り、水温や生物や湧水の状態を、正に探歩しながら観察しているからです。並々ならぬ白子川への愛を感じさせますが、岡崎さんをそこまで行動させる原動力はいったい何なのでしょう？みなさん、ちょっと知りたいとは思いませんか？白子川源流部をこよなく調べつくすへんなおじさん！なんかではない何かがありそうです！
岡崎さんの観察記録と一緒にのぞいてみましょう。
(編集部)

私は去年の7月から今年の5月まで、ほぼ四季を通じて毎朝午前6時～8時の時間帯に、白子川源流部（源流から松殿橋まで含む）の水温を測ってきました。同時に、湧水の温度も測り、下の表にしてみました。四季の水溫の変化を見ていくと、すぐに気づくことはありませんか？

	源流池	コイのいるところ	火の橋	松殿橋	気温	湧水の温度	単位 (°C)
春(5月)	15.7	16.7	16.6	16.7	14.7	17.4	
夏(8月)	★ 27.5	20.0	20.8	19.5	30.1	17.1	
秋(10月)	16.0	17.1	17.0	17.5	15.1	17.5	
冬(1月)	★ 5.5	14.5	13.0	14.1	2.3	17.2	

(この間に、井頭橋がある。ここから右側は下流になる。)

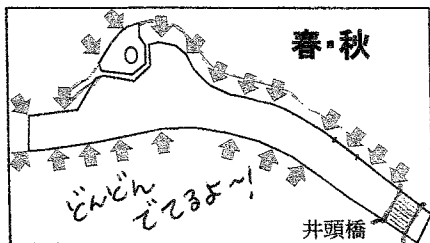
そうです！さすがに湧水！四季を通じて17℃くらいで、安定していますね。

では、次に源流池の夏と冬の水溫に注目してください。夏は早朝にもかかわらず27.5℃、めちゃくちゃ温かいです。午前10時にはかろうじて30℃を超えています。まるでお風呂です(^)。冬は5.5℃で、めちゃくちゃ冷たいです。池全体に氷がはることもあります。

井頭橋より下流は、20℃を大きく超えることなく、湧水の17℃前後で安定しています。

なぜ、源流池の水は、夏は熱く、冬は冷たくなるのでしょうか？源流池は、豪雨時の調節池としてつくられ、河床の勾配が緩やかなため、水の滞留時間が長くなります。そのため、大気の影響を受けやすくなります。なおかつ、夏と冬は、湧水がとても少なくなります。そのため、夏は熱く、冬は冷たくなるのです。湧水が多い春と秋は水がどんどん流れて、水温も湧水の温度の17℃前後で安定するのです。

では、最後に私が確認した源流池の【湧水のポイント】をお教えします。源流池に入る機会があったら、ぜひそっと水の中に手をさし入れてみてください。17℃の湧水を体験できますよ！



※湧水量・湧水地点は、降水量により変わる。

白子川現代史 第1回

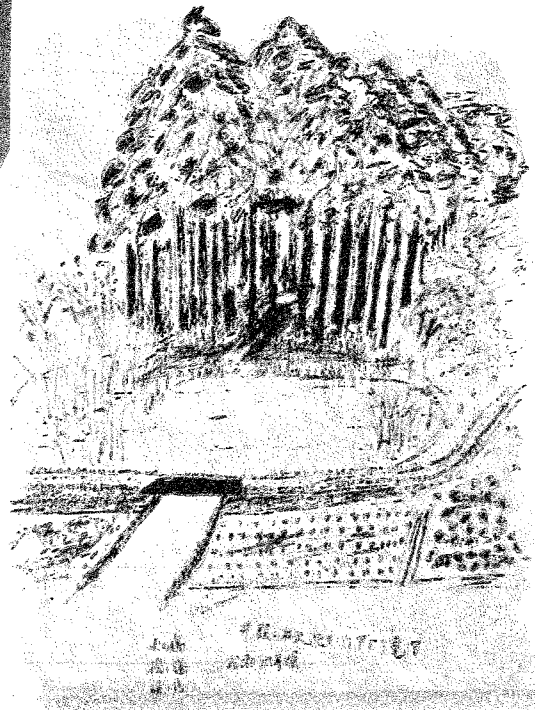
白子川との出会い

片野令子

「日本の森林は米を作った。それ故、水も、土も作ってきた」と川をくまなく歩き続けた富山和子さんは言っていた。白子川も歴史をたどれば、「深い杉の森の中の3アールぐらいの池（遊水地）から流れ出ている」と、この地の古老が話してくれた。白子川の名称は朝鮮半島の新羅の国の人々がこの地に住み、「志楽木郷」と呼んだその名残でもあるときいた。朝鮮半島とのつながりもあるんだなあ。

その白子川との出会いは1965年東京オリンピックの翌年、この地に越してきてからである。すでに農地は宅地化がすすみ、武蔵野台地の面影も消えつつあった。しかしまだガチャガチャとクツワ虫が鳴き、スイーチョンとウマオイが鳴き、スズムシ、カエルの鳴き声も聞くことができ、のどかであった。現在では全く聞くことができなくなったが…。

キャベツ畑と芝生畑では、たえず農薬が散布され、時には人糞もおおっていた。いまのみどり広場には農家が空家になって、納屋もあり、その周辺は畑だったのであろうか、耕さないから草がポウポウと生い茂っていた。下水は整備されず、道路も雨が降るとぬかるみ、大泉学園駅まで行くのに雨靴をはき、駅ではき替えたものだ。飲料水は地下水を汲みあげた共同井戸。生活排水はU字溝に流され、



高橋豊治さんの描いた思い出の風景。
井頭の弁天池を川下より見る(昭和10年頃)

勾配のないところで淀んで臭うため、当番で掃除した。ある時、生活排水がどこに流れていくのかたどってみようということで流れを追って行ったら、白子川へ流れ出ているのがわかった。これが白子川との実際の出合い。濁っていて、泡が飛んでいる川であった。

火之橋の下に直径3mぐらいの水はけの土管があり、そこから生活排水が白子川に流れ出る。川はウリのようなくたびれた形で、合成洗剤の泡や廃油なども浮いていて、悪臭ただようとも川とは思えない状態であり、すでに都内の河川でワーストワンの汚濁白子川となっていた。白子川沿いに住む人たちは川に背を向けて家を建て、川から遠ざかるばかりであった。白子川は見捨てられつつあったのである。

井の頭池の 「かいぼり」に参加

岡崎一成

“かいぼり”ってなあ〜に？

吉祥寺の井の頭公園の池で、“かいぼり”が27年ぶりに行われました。代表の菅沢さんと私は、“おさかなレスキュー隊”として参加しました。

“かいぼり”とは、“掻い掘り”と書きます。池の水を抜き、池の底の泥を取ったり、魚をとったりすることです。農業用のため池では良い状態を保つために欠かせません。井の頭池の“かいぼり”は、池の底を干して水質改善を図ることと、外来種の駆除を目的に行われました。

池の干し上げは、1月下旬から2月下旬の1ヶ月間。私たちは、1月25日に、干し上がった池に入って魚を捕獲、保護しました。

井の頭池の水は、汲み上げ地下水！

井の頭池は、湧水が涸れてしまったのでポンプで地下水を汲み上げています。かいぼり終了後、透明な地下水を入れたのですが、その直後からモスグリーンの水になってしまいました。植物プランクトンが大発生したのです。原因は、地下水の窒素濃度の高さと池底の泥が汚れていることです。今回の“かいぼり”では、2月の大雪が影響して、泥の改善が十分できなかったのでしょうか。そして、汲み上げの地下水の量が、本来の湧水の量ほどもないために、よどんだ状態が続いて、泥はさらに汚れ続けるのです。

白子川の源流部もアオミドロが発生して、泥の富栄養化が心配になってきました。湧水が涸れないように考えなくてははいけません。



参加者が一列にならんで、魚を追い込み捕獲。

どんな魚がいたの？

捕獲された魚は、18,284匹

- ・国外外来種・改良品種 77.3%
- ・国内外来種 17.6%
- ・在来種 5.1%

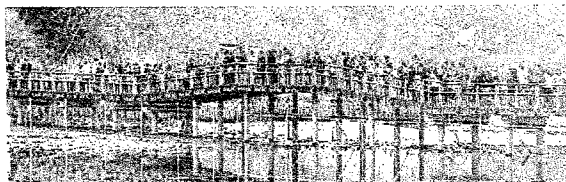
主な国外外来種には、ブルーギル 12,712匹、オオクチバス 1,177匹、コイ 217匹など。国内外来種には、ヌマチチブ 2,863匹、ゲンゴロウブナ 202匹、ギギ 141匹など。外来種の中には、1メートルを優に超える巨大な魚もいました。

※(数字は「日本自然保護協会会報 No.53」による。)

そして、井の頭池に生息する魚の95%が外来種で、昔から棲んでいた在来種はたった5%だったことはショックでした。

白子川で“かいぼり”をやったら、いったいどうなっているのでしょうか？

生物の割合はわかりませんが、“かいぼり”は、毎年夏と冬にやっています…というより、かいぼり状態になっていますけどね(^^)。



橋の上で、珍しい“かいぼり”を見るたくさんのお見物人。

報告 2

3月30日シンポジウム(自由学園主催) 「向山緑地・立野川から始める地域学」 に参加して

渡部 薫

東久留米にながれる3本の川のひとつである立野川とその源流部の向山緑地の残された自然の保全に関わる自由学園、東久留米市と市民の活動が「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に選ばれ、その記念講演に参加しました。近隣の落合川、南沢湧き水群も「平成の名水百選」に都内で唯一選ばれており、地域の貴重な財産として保全がもとめられ、自由学園は全国一斉調査では同河川の水質調査をおこなっています。

同学園は平成25年2月、大泉南小学校で開催された第8回「川でつながる発表会」(新河岸川流域川づくり連絡会主催)にも参加、その発表から、歴史ある活動に大変興味をもった方も多かったと思います。今回の参加もその経緯から絶好の機会として参加できましたこと有難く思っております。

発表された各分野での活動報告はそれぞれの団体の様々な関わり方が大変良く判り、楽しく、興味深いものでした。

発表は90分。地質学の専門分野から関東山地のお話、地元農家の方の地域の歴史、高度成長期に会社で「活躍」し環境破壊した、そのお返しにと活動をされている方、東久留米市の取り組み、自然環境の教育への大切さを子供たちに伝える取り組み、雨水浸透マス普及の実態調査活動、さらに93年前に目白に自由学園が創設され、その後、1934年に自然豊かな南沢に学園が移転された経緯、創設者の思想に基づいた歴史ある地域とのつながりを持った活動、最後に近隣の西東京市からの切実なお願など。発表された8各団体の代表の方々のお話はすべてが心に残るものでした。

又、同シンポジウム開始前に特別に案内していただいた園内を流れる立野川とその保全活動の説明、大泉学園から2駅のひばりが丘の近くに多くの方々の力により、護岸されていない静かな川が周りの自然環境と共に大切に守られていること、感動しました。白子川の活動にとっても大いに勉強になる記念講演を拝聴できたこと感謝しています。発表の詳細内容については別途講演のレジメを頂いていますので、ご希望の方はお申し出下さい。

なお、4月の運営委員会では、「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に白子川も応募することが話題にのぼりました。川底の泥撤去など技術的支援もあるとのこと。応募を検討中です。

(参加：渋井・池田・永井・渡部)

報告 3

8月の科教協大会に わが会も参加します!

理科の先生方を中心にした民間教育団体「科学教育研究協議会」の全国研究大会がこの8月に東京で開催されます(この運営委員長が会員の小川郁さん)。この大会では10の分科会に分かれて研究発表がありますが、私たちの会もこのうちの「自然と社会」という分科会で発表してほしいとの要請を受け、運営会議で論議し、参加を決めました。8月2日(土)のナイターと3日(日)の分科会で発表します。

それに先立ち、4月20日(日)に「東京プレ大会」(港区・芝学園)があり、その分科会にも当会から6人(横山・永井・片野・鈴木・岡崎・東谷)が参加し、発表しました。

発表は三本立て。①白子川の位置と地理的環境・会を結成するまでの川の状況(永井)、②会の会員数と定例活動等の活動内容(東谷)、③調査の中で、生物・水質についてわかってきたこと(横山)。そして、他の会員が参加者からの質問に答えました。他にも5本の発表がありました。いずれも興味深い発表で、熱心な質問が相次ぎました。当日の参加者は全体で322名あったとのことです。(東谷 篤)

白子川上流では、井頭橋から火の橋にかけてカワモズクを見かけます。特に水の湧き出るところによく見られます。色は茶色なので、チャイロカワモズクと思われれます。植物学上の分類は、藻類紅藻綱カワモズク目カワモズク科に属します。

紅藻類というのは、大きく2種類あり、カワモズクは真正紅藻綱に属し、3世代交代を行う種と言われます。紅藻類自体は5000種もありますが、ほとんどが海中で生存しています。雌雄の株（配偶世代という）以外に果胞子という世代が存在し、この世代は夏を越すことが可能となっています。配偶世代は、晩秋に発生し、冬成長し、晩春に消失します。

体は節を持つ中軸と節から出る輪生枝からなり、全体が粘膜で覆われています。配偶世代・果胞子世代とも石や岩盤、コンクリート、木杭などに着生します。

カワモズク



光合成を行い、 α クロロフィル、 β カロチン、キサントフィル、フィコピリン等の色素を持ち、紅藻でんぷんを作ります。

コイなどは、これを食べるといわれています。食用にするところもあるそうで、カロリーは低いですが、タンパク質、無機質、ビタミンを含んでいます。



アユを探せ。

5月11日に白子川下流で放流した4,000匹のアユは、どこまでのぼるか、元気に育つか、みんなで見守りましょう！「アユの群れを見た」「餌を食べた跡(はみあと)を見つけた」方のご連絡ください。 03-3923-8430 すがさわ

これからの活動予定

- 6/ 8 (日) 身近な川の全国一斉調査
- 6/15 (日) 定期総会
- 6/22 (日) 定例活動 (6/21 運営会議ナシ)
- 7/27 (日) 定例活動
- 8/2、3 (土日) 科学教育研究協議会東京大会
本大会参加
- 8/24 (日) 定例活動

※運営会議は定例活動の前夜です

定例活動 毎月第4日曜 午後1:30～

どなたでも 川にはいれます!

編集後記

▼なぜ、白子川の湧水は湧き続けているのか？ 三宝寺池も武蔵関公園池も善福寺池も井の頭公園池も、とっくに涸れているのに…。白子川の不思議に魅かれていく。(ひ)

▼いつもいつも感じていたTOTOのみなさんの社会参加意識の高さ、その根源は毎月の報告と宣伝に。敬服至極。片野さんの連載「白子川現代史」に期待。頑張れ。(あ)

▼厄介者のアオミドロを手でつかむと、指の間をスルスル崩れ落ち、瓶に入れると小さな泡をいっぱい出して底で静かにまとまる。意外にかワイイ！泡は酸素だ！不思議な世界。(さ)

▼5月の定例活動は半年ぶり。胴長着けて川の中を思う存分歩ける楽しさを久しぶりに味わった。いつの日か、生まれたばかりの孫と、ともに楽しむ日を想う。(け)

発行 白子川源流・水辺の会

編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子

題字 宮本沙海

発行部数 1,300部

代表 菅沢 博 03-3923-8430

練馬区南大泉 1-10-5

suga-lohas@jcom.home.ne.jp

http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年3回発行しています

当会はTOTO環境基金の助成を受けています